



モルディブ ISDR 防災メディアキャパシティ・ビルディングトレーニング

SEEDS Asia は ISDR（国連防災戦略）の資金援助を受け、2008 年 7 月から 2009 年 3 月にかけてモルディブ共和国で「防災メディアトレーニング」プロジェクトを実施しています。

<プロジェクトの背景>

モルディブ共和国は、南北 820km、東西 128km にわたり約 1190 の島々と 26 の環礁から成り、このうち 199 の島に人口が分散、その他 80 の島がリゾート開発されています。国土の 80%が海拔 1m 未満で、つまり、温暖化による 1m の海面上昇により、モルディブは 80%の国土を失う危険にさらされています。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）によると 1990 年から 2100 年に 0.09~0.88m の海面上昇が推定されているうえ、実際に 2004 年にインド洋津波を経験してからは、次々と風害、水害に見舞われ、沿岸部においてはますます侵食被害が進行しています。

<プロジェクト実施への経緯>

自然災害の被害を受けやすく、しかも人口が多く島の島々に分散しているモルディブにおいて、「防災」において重要な役割を担うのがマスメディアの存在です。同国環境関連の別プログラムの実施を通じて、モルディブの人々が「環境」に比較的強い関心があることが分かっていますが、残念ながら「災害リスク」「防災」という観念は普及していません。国民のテレビやラジオの利用率が高いと言われていることから、これらメディアを有効に利用することにより、災害早期警報・災害時の情報伝達はもちろん、日常から人々を啓発していくことができるツールとしてマスメディアの役割に強い期待が寄せられています。

このような状況の中で SEEDS Asia は、インド洋津波後に国によって設置された国家防災センター（NDMC）の強い要請を受けて、現地メディアを対象とした意識向上トレーニングワークショップを企画実施することになりました。



<プロジェクト>

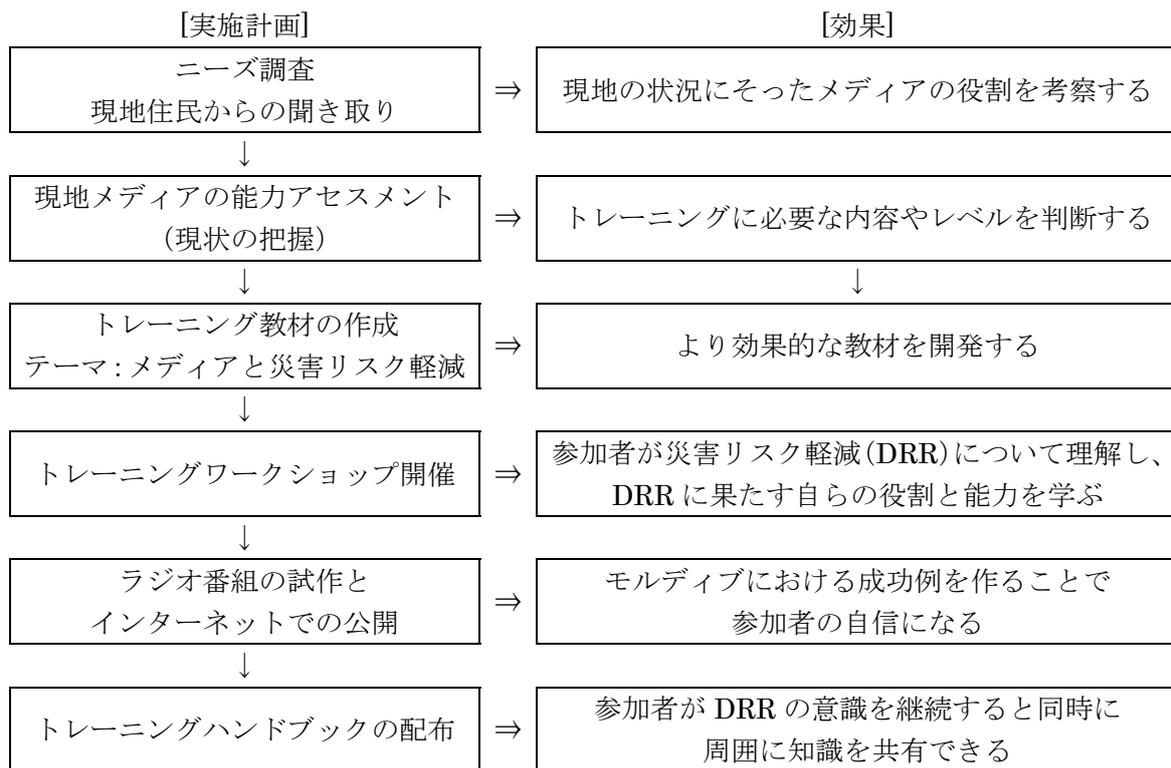
■対象：国営テレビ、ラジオ関係者、民間のマスメディア関係者

■内容

日本をはじめ海外の「防災におけるメディアの役割」に関する事例を紹介し、被災時のメディア活動や日常から災害に備えるためのメディアの発展を踏まえて、モルディブの既存番組の見直しと新たな番組制作を実施します。より高い波及効果を追求するため、防災やメディア分野に強いモルディブ政府関係機関・研究者・NGO など多くの関係組織を巻きこんでプロジェクトを推進していく予定です。さらに、参加者への意識向上の効果を、その後のメディア活動を通じてモルディブ全国民に還元したいと考えています。

■目的

1. メディア関係者の災害リスク軽減に対する意識啓発と彼らが果たし得る役割の能力向上
2. メディア関係者間の連携構築
3. メディアが災害リスク軽減に果たす役割の可能性を証明するための試験的ラジオ番組制作



■ 目指す成果

計画を着実に進めることで、マスメディア関係者が防災リスク軽減に果たす役割に自覚をもち、自らその能力を高めることで、モルディブ全土の国民が災害への意識を高めていくことを期待しています。そのために、トレーニング終了後参加者が実践で参考にできる教材を配布し、また、参加者が視聴者からのフィードバック分析をもとに、視聴者のニーズと視聴嗜好(傾向)を把握する能力を養えるようトレーニングを通じてサポートします。また、同トレーニングワークショップはともにトレーニングに参加した関係者が協力関係を築いていくプロセスとしても重要な場になると考えています。